

一般社団法人 日本原子力学会
第 72 回 標準委員会 (SC) 議事録

1 日時 2018 年 03 月 07 日 (水) 13:30~19:55

2 場所 5 東洋海事ビル D 会議室

3 出席者 (敬称略) (開始時)

(出席委員) 関村委員長, 越塚副委員長, 伊藤幹事, 青柳 (途中から退室), 上田 (真), 上田 (親), 岡本 (途中から退室), 尾崎, 河井, 酒井, 清水 (途中から退室), 高橋, 多田 (途中から入室), 中井 (途中から退室), 成宮, 新堀, 西野, 萩原, 松井, 吉原, 渡邊 (21 名)

(フェロー委員) 宮野 (1 名)

(代理委員) 小出正 (中部電力/竹山代理), 喜多利亘 (東京電力ホールディングス/姉川代理), 鈴木嘉章 (岡本委員退室時から代理 (システム安全専門部会幹事/岡本代理)) (3 名)

(欠席委員) 井口, 小原, 寺井, 中村, 山口 (5 名)

(欠席フェロー委員) 成合 (1 名)

(常時参加者) 鈴木 (1 名)

(欠席常時参加者) 山中 (1 名)

(オブザーバ) 碓井直志 (日立 GE ニュークリア・エナジー), 西村孝夫 (三菱重工業) (2 名)

(説明者) 【PLM 分科会】中川幹事, 【LLW 放射能評価分科会】北島幹事, 柏木常時参加者, 本山常時参加者, 【リスク専門部会】成宮幹事, 吉田委員, 野村常時参加者, レベル 1PRA 分科会 橋本幹事, 【シビアアクシデントマネジメント分科会】鎌田幹事, 黒岩委員, 【水化学管理分科会】北島幹事, 梅原常時参加者, 【廃止措置分科会】田中幹事, 【標準活動基本戦略タスク】伊藤主査, 河井幹事, 成宮幹事, 高橋委員, 田老事務局, 【原子力安全検討会】河井幹事, 成宮幹事 (延べ 20 名)

(事務局) 中越, 田老, 谷井 (3 名)

4 配布資料:

SC72-0 第 72 回標準委員会議事次第 (案)

SC72-1 第 71 回標準委員会議事録 (案)

SC72-2-1 人事について (標準委員会)

SC72-2-2 標準活動基本戦略タスク委員名簿

SC72-2-3 人事について (専門部会)

SC72-3 PLM 実施基準 201X (追補 2) に関する公衆審査結果について

SC72-4-1 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の標準改定原案に関する公衆審査結果について

SC72-4-2 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順” の標準改定原案に関する公衆審査結果及び受付けた意見への受付けた意見 (川崎様) への回

- 答案について
- SC72-4-3 “中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する公衆審査結果及び受付けた意見への受付けた意見(山口様)への回答について
- SC72-5-1 “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”標準原案の誤記チェック結果(案)に関する標準委員会意見募集結果について
- SC72-5-2-1 “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”標準原案の誤記チェック結果(案)に関する標準委員会意見募集結果への対応について(その1)
- SC72-5-2-2 “核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”標準原案の誤記チェック結果(案)に関する標準委員会意見募集結果への対応について(その2)
- SC72-6 “原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準(レベル1 PRA編):201X”改定案の標準委員会決議投票コメントへの対応について
- SC72-7-1 “原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準:201X”の標準改定原案に関する標準委員会決議結果について
- SC72-7-2 “原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準:201X”の標準改定原案に関する標準委員会決議で受付けた意見への回答について
- SC72-7-3 “原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準:201X”の標準改定案
- SC72-8-1 “沸騰水型原子炉の水化学分析方法ーよう素131”, “沸騰水型原子炉の水化学分析方法ーコバルト60イオン”及び“沸騰水型原子炉の水化学分析方法ー金属不純物”の標準原案に関する本報告について
- SC72-8-2 “沸騰水型原子炉の水化学分析方法ーよう素131”標準原案
- SC72-8-3 “沸騰水型原子炉の水化学分析方法ーコバルト60イオン”標準原案
- SC72-8-4 “沸騰水型原子炉の水化学分析方法ー金属不純物”標準原案
- SC72-9 “原子力施設のリスク評価標準で共通に使用される用語の定義:201X”標準改定原案に関する本報告について
- SC72-10-1 【中間報告】“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”の改定について
- SC72-10-2 【中間報告】(概要)“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”改定(案)
- SC72-11-1 【中間報告】(概要)“加圧水型原子炉二次系の水化学管理指針”
- SC72-11-2 “加圧水型原子炉二次系の水化学管理指針”(案)
- SC72-12-1 “原子力施設のリスク評価の品質確保に関する実施基準:201X”の標準改定原案に関する標準委員会意見募集結果について
- SC72-12-2 “原子力施設のリスク評価の品質確保に関する実施基準:201X”の標準改定原案に関する標準委員会意見募集で受付けた意見への回答について

- SC72-13-1 「実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX」の改訂・廃止措置の基本安全要件」に係る技術レポートの策定(中間報告資料)
- SC72-13-2 「実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX」(案)
- SC72-13-3 「廃止措置の基本安全要件」(案)
- SC72-14 欠番
- SC72-15 欠番
- SC72-16-1-1 標準活動基本戦略タスク 2017 年度第 4 回議事録
- SC72-16-1-2 標準委員会活動全体計画(年間工程表) (2017. 9-2018. 12)
- SC72-16-2-1 2017 年度活動中間報告及び 2018 年度活動計画 (Draft) の意見募集結果
- SC72-16-2-2 2017 年度活動実績報告及び 2018 年度活動計画 (Draft)
- SC72-16-3-1 SG-108 倫理教育実施ガイドラインの意見募集結果について
- SC72-16-3-2 SG-108 倫理教育実施ガイドラインの標準委員会の意見募集への対応
- SC72-16-3-3 SG-108 倫理教育実施ガイドライン
- SC72-16-4 改定案 標準委員会運営規約
- SC72-16-5 改定案 標準委員会審議細則
- SC72-16-6 標準誤記対応ガイドライン案
- SC72-16-7-1 H29 年度倫理規程の周知徹底に関する活動状況について
- SC72-16-7-2 H30 年度 倫理規程等の周知徹底活動について
- SC72-16-8 学協会規格体系化のための検討 (最終報告) の意見募集結果について
- SC72-16-9 技術レポート・用語辞典(最終報告) の意見募集結果について
- SC72-16-10 標準策定 5 ヶ年計画の更新ガイドライン及び新知見収集・評価 WG 設立の意見募集結果について
- SC72-16-11 標準委員会活動 5 ヶ年計画の意見募集結果について
- SC72-16-12 ANS 内規とのギャップ分析の意見募集結果について
- SC72-16-13 改定案 標準委員会の活動基本方針
- SC72-16-14 学協会協議会及び基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況 (その 25)
- SC72-16-15-1 学協会ステートメントの意見募集結果について
- SC72-16-15-2 学協会ステートメント (H29. 12 意見募集) へのコメントへの対応
- SC72-16-15-3 3 学協会委員長ステートメント (H24. 3) の見直しについて
- SC72-16-16 日本版 NEI 構想に関する ANS 訪問について
- SC72-16-17 平成 30 年度の標準委員会開催日について
- SC72-16-18 標準委員会の出席状況
- SC72-16-19 標準委員会の投票状況
- SC72-17 専門部会活動状況報告
- SC72-18 標準委員会の活動状況
- SC72-19-1 第 23 回原子力安全検討会 議事録
- SC72-19-2 地震安全基本原則の今後の進め方について (案)
- SC72-20 標準策定 5 ヶ年計画

参考資料

- SC72-参考 1 標準委員会委員名簿
- SC72-参考 2 標準委員会開催スケジュールについて (案)

5 議事内容

事務局から開始の時点で委員(フェロー委員含め)30名中、23名の出席があり、委員成立に必要な委員数(20名以上)を満足している旨、報告があった。

(1) 前回議事録の確認(SC72-1)

前回議事録(案)について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について(SC72-2-1, SC72-2-2, SC72-2-3)

事務局配付資料のSC72-2-1, SC72-2-2, SC72-2-3に基づいて、標準委員会、標準活動基本戦略タスク及び専門部会の人事について以下の提案又は報告があった。

a. 標準委員会人事

① 理事会による委員選任承認の確認

松井 哲也(日立GEニュークリア・エナジー)

尾崎 博(富士電機)

② 理事会による委員再任承認の確認

姉川 尚史(東京電力ホールディングス)

井口 哲夫(名古屋大学)

多田 伸雄(日本電機工業会)

中井 良大(日本原子力研究開発機構)

③ 委員退任の確認

岡本 太志(富士電機)

④ 委員再任の決議

新堀 雄一(東北大学)

⑤ 専門部会長再任承認の決議

原子燃料サイクル専門部会 新堀 雄一

⑥ 業種変更に伴う委員継続の承認決議

成宮 祥介

元:関西電力(電力事業者等)

変更後:原子力安全推進協会(非営利団体, 保険業, その他)

理事会による委員選任承認等が確認され、委員再任等及び同一組織の他の委員とは専門分野が異なるという前提での種々変更に伴う委員継続が承認された。

b. 標準活動基本戦略タスク人事

① 委員の業種変更の確認

成宮 祥介

元:関西電力(電力事業者等)

変更後:原子力安全推進協会(非営利団体, 保険業, その他)

委員の業種変更が確認された。

c. リスク専門部会

① 委員選任決議の承認(決議)

佐々木 泰裕(関西電力)

② 常時参加者登録解除確認の確認

- 赤堀 猛（原子力規制庁）
- ③ 常時参加者登録承認決議の確認
西村 健（原子力規制庁）
- ④ 業種変更に伴う委員継続承認決議の確認
成宮 祥介
元：関西電力(電力事業者等)
変更後：原子力安全推進協会（非営利団体，保険業，その他）
常時参加者登録解除確認等が確認され，委員選任決議が承認された。
- d. システム安全専門部会
- ① 委員再任決議の承認(決議)
青木 繁明（三菱原子燃料）
- ② 常時参加者所属変更確認の確認
成宮 祥介
元：関西電力
変更後：原子力安全推進協会
常時参加者所属変更確認が確認され，委員再任決議が承認された。
- e. 基盤応用・廃炉技術専門部会
- ① 委員退任確認の確認
越塚 誠一(東京大学)
- ② 委員（分科会代表者）選任決議の承認(決議)
シミュレーションの信頼性分科会
田中 正暁（日本原子力研究開発機構）
委員退任確認が確認され，委員（分科会代表者）選任決議が承認された。
- f. 原子燃料サイクル専門部会
- ① 委員(分科会代表者)選任(兼務)決議の承認(決議)
【LLW 埋設後管理分科会】
山本 正史（原子力環境整備促進・資金管理センター:深地層分配係数分科会，ウラン・TRU 取扱施設クリアランスレベル検認分科会代表（兼務））
- ② 委員再任決議の承認(決議)
川上 泰（原子力安全研究協会）
- ③ 部会長再任決議の承認(決議)
新堀 雄一（東北大学）
- ④ 副部会長の指名の確認
高橋 邦明（日本原子力研究開発機構）
- ⑤ 幹事指名の確認
加藤 和之（原子力損害賠償・廃炉等支援機構）
副部会長の指名等が確認され，委員(分科会代表者)選任(兼務)決議等が承認された。

(3) 【報告・審議】PLM 実施基準 201X(追補 2)に関する公衆審査結果について(SC72-3)
PLM 分科会の中川幹事から SC72-3 に基づいて，“高経年化対策実施基準 201X(追補 2)”

の標準原案に関する公衆審査で意見がなかったことが報告され、審議の結果、当該標準原案を制定することが決議された。

(4)【報告・審議】“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する公衆審査結果及び受付けた意見への回答案について (SC72-4-1, SC72-4-2, SC72-4-3)

事務局から SC72-4-1 に基づいて、“中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法の基本手順”の標準改定原案に関する公衆審査で 2 名から意見を受付けたことが報告された。引続いて、LLW 放射能評価分科会の北島幹事、柏木常時参加者から SC72-4-2, SC72-4-3 に基づいて、当該公衆審査で受付けた意見への回答案について報告があった。審議の結果、当該回答案を意見提出者に連絡すること及び当該回答案を反映した標準改定原案を制定することが決議された。

主な質疑等は次のとおり。

Q:資料 4-3 は、天然に存在する放射性元素に関する記述の適正化と捉えて良いか。

また、Ni-59 など処分の重要核種に関する配慮はされているか。

A:天然に存在する放射性元素に関して、誤読の無いように表現を適正化した。

また、Ni-59 に関しても、安定元素からの生成は、きちんと評価できるように考慮してある。

C:資料 4-2 の回答の文章の第 2 パラグラフの“先ず、ご理解いただきたいのは”の表現は、なくても良いのではないか。

A:拝承、削除する。

C:公衆審査のコメントに対する回答は、今後、審議の中で議論された事項のように、標準の中に議論の内容（本日の資料）を示す形で残すことが、必要ではないか。

C:公衆審査のコメントへの回答は、公開されるため、次回、改定時に反映するなどの形で対応すれば良いのではないか。

C:公衆審査でのコメント対応は、今後、標準中の“審議中に議論となった事項”などに反映する対応を図る方針とし、議事録にも記載すること。

A:次回の標準改定時に、標準（解説内など）に今回の資料を反映する。また、議事録にも記載する。

(5)【報告・審議】“核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”標準原案の誤記チェック結果(案)に関する標準委員会意見募集結果及びその対応について (SC72-5-1, SC72-5-2-1, SC72-5-2-2)

事務局から SC72-5-1 に基づいて、“核燃料施設に対するリスク評価に関する実施基準:201*”標準原案の誤記チェック結果(案)に関する標準委員会意見募集結果が報告された。引続いて、標準委員会の伊藤幹事から SC72-5-2-1 に基づいて、当該意見募集で受付けた意見への標準委員会 3 役の回答が、リスク専門部会の吉田委員から SC72-5-2-2 に基づいて、当該意見募集で受付けた意見への回答案が報告された。審議の結果、当該回答案を反映した標準原案を制定することが決議された。

主な質疑等は次とおり。

C:RF=1.0 とする物理的な意味合いについて付記する方が良い。

A:次回の改訂時に頂いたコメントを反映することとし、現状のままで策定の決議

をお願いしたい。

C: 努力目標として 1 年後を目処に改訂すると条件付で策定の決議をしてはどうか。

(6) 【報告・審議】“原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 1 PRA 編：201X” 改定案の標準委員会決議投票コメントへの対応について（SC72-6）

レベル 1PRA 分科会の橋本幹事から SC72-6 に基づいて、“原子力発電所の停止状態を対象とした確率論的リスク評価に関する実施基準（レベル 1 PRA 編：201X” の標準改定原案についての標準委員会決議投票で受付けた意見への回答案が報告された。審議の結果、当該回答案を反映した標準原案で公衆審査に移行することが決議された。

(7) 【報告・審議】“原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準：201X” の標準改定原案に関する標準委員会決議結果及び受付けた意見への回答案について（SC72-7-1, SC72-7-2, SC72-7-3）

事務局から SC72-7-1 に基づいて、“原子力発電所におけるシビアアクシデントマネジメントの整備及び維持向上に関する実施基準：201X” の標準改定原案が標準委員会決議で可決されたことが報告された。引続いて、シビアアクシデントマネジメント分科会の鎌田幹事、黒岩委員から SC72-7-2, SC72-7-3 に基づいて、当該決議で受付けた意見への回答案について報告があった。審議の結果、当該回答案を反映した標準原案で公衆審査に移行することが決議された。

主な質疑等は次とおり。

Q1：事象の想定が困難な低頻度・高影響事象という記載があるが、発生頻度が明確になっていないということか。低頻度とは何らかの根拠があるわけではないのか。安全機能の重大な喪失との相違は。

A1：低頻度・高影響事象については、単一、重畳事象及び安全機能の重大な喪失以外の残余の事象を指している。安全機能の重大な喪失については、設計基準を超える地震、津波等の自然ハザード、B5b のテロ等の人為ハザードに起因する事象であるが、事象の想定、脆弱性特定の定性評価（当該 ET では緩和系及び AM の全機能喪失を提示）は可能としている。一方、低頻度・高影響事象についてはこれらの想定、評価がほぼ不可能な事象を指している。“低頻度”とは定量的な発生頻度の裏づけがあって呼んでいるわけではない。

Q2：それでは低頻度・高影響事象という名称が不適切ではないのか。

A2：低頻度・高影響事象の定義について調べたが、専門家によって定義の濃淡はあるものの、一般的には事象の想定や影響評価が困難な非常にレアな事象を指している。本標準内では定義、解説（隕石落下の事例も含め）で明確に定義している。

Q3：コメント 4 で一般市販品を採用することも許容することであるが、JEAC4111 の考え方と整合しているのか。

A3：原則的には JEAC4111 を適用するが、重要度、マネジメントクラスの低い資材等（ビニール製のホース等）については、機能要求、使用時間及び耐環境性等が適合していれば、原子力仕様ではない一般市販品を活用することが許

容されるという趣旨である。これが現実的な AM における運用となっている。

Q4：規制，事業者に対して，今後どのように標準の改定や活動をしていくのか。

A4：高浜 3 号の安全性向上評価では，リスク評価による脆弱性特定，AM 策定の評価手順について初版の SAM 標準を適用したとの報告があったが，この安全性向上評価の適用実績を踏まえ，今回の改定内容（AM 策定ロジック等）も含めた本標準の適用性，課題等についてフォローしていく。

(8)【報告・審議】“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－よう素 131”，“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－コバルト 60 イオン”及び“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－金属不純物”の標準原案に関する本報告について(SC72-8-1, SC72-8-2, SC72-8-3, SC72-8-4) 水化学管理分科会の北島幹事，梅原常時参加者から SC72-8-1, SC72-8-2, SC72-8-3, SC72-8-4 に基づいて，“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－よう素 131”，“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－コバルト 60 イオン”及び“沸騰水型原子炉の水化学分析方法－金属不純物”の標準原案に関する本報告があった。審議の結果，当該標準原案の標準委員会決議投票に移行することが決議された。

主な質疑等は次とおり。

Q:上位指針である“BWR 水化学管理指針”との関連性はどうなっているのか。

A:本指針は上位指針である“BWR 水化学管理指針”を下支える標準であり，本内容を標準に記載した。

(9)【報告・審議】“原子力施設のリスク評価標準で共通に使用される用語の定義:201X”標準改定原案に関する本報告について (SC72-9)

リスク専門部会の成宮幹事，野村常時参加者から SC72-9 に基づいて“原子力施設のリスク評価標準で共通に使用される用語の定義：201X”標準改定原案に関する本報告があった。審議の結果，当該標準原案の標準委員会決議投票に移行することが決議された。

また，英訳版について決議投票期間に合わせて意見募集することとした。

主な質疑等は次とおり。

C:あくまで“日本語”の標準が正。“英語”へのコメントを“日本語”の標準にも反映するというのはプロセス上ありえない。委員は“日本語”の書面投票に対してしっかりと意見を提出すること。

C:“共通”という概念を明確にしておく必要がある。日本語は表現が曖昧なので，今後 ASME と議論していくにあたって“共通”とは何かを明確にしておく必要がある。

Q:これは複数の PRA 標準の用語の和集合なのか，積集合なのか。

A:複数の PRA 標準で使われる用語の積集合である。核燃施設の標準もできたので，今回の改定で発電所だけを対象とした用語はそれが分かるようにしている。

Q:略語の中には例えば，FP が Fire Protection System となっているが，これは特殊で，積集合に見えないものもある。

A:火災 PRA 標準で記載があった用語だと思う。

C:本コメントは，書面投票時に改めて提出すること。

Q:共通用語はどのように選んでいるのか。

A:この標準を最初に作ったときには，各 PRA 標準内で定義されている用語を全て並べて，マトリックスを作り，複数の標準で定義されている用語を共通用語とした。共通

用語となったものは、その後の個別の PRA 標準を改定する際に、随時抜いていっている。

C: そういったプロセスを標準内で明記すること。

Q: 今回共通用語を改定することで、経過措置・遡及措置の記載が必要なのではないか。

A: 共通用語は個別のリスク評価標準では定義しない方針であり、共通用語の定義標準と個別のリスク評価標準の両方に同じ用語が定義されているわけではなく、必要ないと考えている。

A: 個別のリスク評価標準と共通用語の定義標準、双方に定義されている用語は、個別のリスク評価標準内の定義が優先されると明記してある。また、新たに制定・改定したリスク評価標準から共通用語を抽出した場合、用語を重複して定義することになるが、次の個別のリスク評価標準改定時に、共通用語となった用語は定義から外すことになるので、一時的なものである。その説明も解説に追加する。

(10) 【報告】“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”の標準改定に関する中間報告について (SC72-10-1, SC72-10-2)

LLW 放射能評価分科会の北島幹事、本山常時参加者から SC72-10-1, SC72-10-2 に基づいて“ピット処分及びトレンチ処分対象廃棄物の放射能濃度決定に関する基本手順”の標準改定に関する中間報告があった。

(11) 【報告】“加圧水型原子炉二次系の水化学管理指針:201X”の標準原案に関する中間報告について (SC72-11-1, SC72-11-2)

水化学管理分科会の北島幹事、梅原常時参加者から SC72-11-1, SC72-11-2 に基づいて“加圧水型原子炉二次系の水化学管理指針:201X”の標準原案に関する中間報告があった。主な質疑等は次とおり。

Q: 12 ページに記載された数字 (SG 器内水管理項目に関するアクションレベル設定値等) は、すでにオーソライズされたものか

A: 今後査読付き論文として投稿し、オーソライズする予定で準備を進めている。

Q: 二次系水化学指針の場合は、BWR のように下位に分析標準を規定しないのか。

A: 二次系の分析は、すべて JIS の分析法で対応可能であるため、規定しない。

なお、分析方法の一覧については附属書 I に記載している。

Q: 12 ページの表 (同上) に諸外国との設定値の比較は入らないのか。また、ラボ試験と我が国の経験で設定値を規定しているとしているが、我が国と特定している理由は？

A: EPRI との比較は、参考資料 19 ページに記載している。EPRI の設定値は、同じくラボ試験と米国の経験をベースとしたものであり、前提条件が異なるため、国内と設定値が異なる場合がある。このため、我が国の知見・経験に基づいた設定値としている。なお、比較表を作成しているのは、水化学ガイドラインのデファクトスタンダードである EPRI と比較して問題点の有無／遜色が無いこと等を確認することを目的としている。

Q: この標準は、基準と指針のどちらに分類されるのか。

A: 管理指針として規定している。

Q: 平成 30 年 9 月に標準委員会本報告の予定か？

A:システム安全専門部会での審議等で手戻りがない前提条件で、9月の本報告を予定している。

Q:SG全体の保全の判断、40年超の運転についての取り扱いについては、指針に記載しないのか。

A:PLM関連の水化学という観点では、取替が進んでいるSGよりも配管等のFACの方が厳しいと考えている。機械学会で今年後半からFAC規格の改訂WGが立ち上がる予定となっており、水化学側の環境緩和をこれに取り込んでもらえるよう働きかけることで考えている。

Q:新規規制準における継続的安全性向上については、どう考えているか？

A:制定後のフォローでも述べたように、FFA等の最新知見・技術をフォローし、指針を適宜改定していることで対応できると考えている。

(12)【報告】“原子力施設のリスク評価の品質確保に関する実施基準：201X”の標準改定原案に関する標準委員会意見募集結果及び受付けた意見への回答案について (SC72-12-1, SC72-12-2)

リスク専門部会の成宮幹事、野村常時参加者からSC72-12-1, SC72-12-2に基づいて“原子力施設のリスク評価の品質確保に関する実施基準：201X”の標準改定原案に関する標準委員会意見募集結果及び受付けた意見への回答案について報告があった。

主な質疑等は次とおり。

C:標準名称にあるの“リスク評価”の意味するところは、適用範囲に明記されていることは承知したが、標準名称を見た際に受ける印象は違う。リスク評価とは、決定論、確率論、工学的判断を総合的に組み合わせたものである。再度検討していただきたい。

A:ご意見の趣旨を踏まえ、標準名称について、分科会、専門部会で改めて議論する。

C:今回の改定は非常に不満である。品質マネジメントを見据えた標準になっていない。JEAC4111を引用規格にしてそれに従っていればいいという考えでは駄目である。IAEAのGSR Part2とかIAEAのSafety Reportシリーズ、ISO9000シリーズのリスクの考え方をどう標準に持っていくのかを考えなければならない。JEAC4111の改定の議論はもっと先をいっている。

C:ピアレビューもピアレビューとしてしか見ていない。組織内でピアレビューして、外のピアレビューもするなど多層的なピアレビューの考え方を持てこないといけない。

(13)【報告】「実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX」「廃止措置の基本安全要件」に係る技術レポート中間報告 (SC72-13-1, SC72-13-2, SC72-13-3)

廃止措置分科会の田中幹事からSC72-13-1, SC72-13-2, SC72-13-3に基づいて“実用発電用原子炉施設の廃止措置の計画：20XX”及び“廃止措置の基本安全要件”に係る技術レポートに関する中間報告があった。

主な質疑等は次とおり。

Q1:“廃止措置の基本安全要件”という、本来他の標準類の上位に位置すべきものが、なぜ“技術レポート”であるのか。

A1:廃止措置としての意見表明という位置付けであるため、技術レポートとしている。

Q1-1:文言の記載を見ると明らかに要求事項(規定)が書かれているが、なぜ標準として策定しないのか。

A1-1：本技術レポートは、標準委員会が制定した“原子力安全の基本的考え方”の記載を継承するものである。標準類の階層構造では、標準が技術レポートの記載を継承する事は階層上不整合となるため、技術レポートしている。

C：このような安全の基本原則を示す図書を技術レポートとして発行するやり方は、標準類のあり方として適切でないと考える。このような図書の位置付けについて標準委員会全体として検討すべきではないか。

C：今回の中間報告にあった廃止措置関連の標準類（技術レポートを含む）について、階層構造を設けこと及び積極的に海外の動向を取り組むとともに、国内外に発信して行く進め方については支持する。

(14) 【審議】標準策定5ヶ年計画（H30年度版）について(SC72-20)

各専門部会からSC72-20に基づいて標準策定5ヶ年計画（H30年度版）に関する報告があり承認された。

(15) 標準活動基本戦略タスク関係（報告）

(15-1) 【報告】標準活動基本戦略タスクの報告と論点（SC72-16-1-1, SC72-16-1-2）

(15-2) 【報告・審議】2018年度活動計画(案)の意見募集結果(SC72-16-2-1, SC72-16-2-2)

標準活動基本戦略タスクの伊藤主査からSC72-16-1-1, SC72-16-1-2に基づく標準活動基本戦略タスクの議事録(案)及び標準委員会活動全体計画(案)並びにSC72-16-2-1, SC72-16-2-2に基づく“標準委員会2017年度活動中間報告および2018年度活動計画(案)”に関する意見募集で意見なかったことが報告され、2018年度活動計画は承認された。

(15-3) 【報告・審議】倫理教育実施ガイドラインの意見募集結果及び回答について
(SC72-16-3-1, SC72-16-3-2, SC72-16-3-3)

標準活動基本戦略タスクの高橋委員から SC72-16-3-1, SC72-16-3-2, SC72-16-3-3 に基づいて倫理教育実施ガイドラインの意見募集結果及び受付けた意見への回答案が報告され、回答案を反映した倫理教育実施ガイドラインの制定が承認された。

(15-4) 【報告・審議（意見募集）】標準委員会運営規約の改定（SC72-16-4）

(15-5) 【報告・審議（意見募集）】標準委員会審議細則の改定（SC72-16-5）

(15-6) 【報告・審議（意見募集）】標準誤記対応ガイドラインの制定（SC72-16-6）

標準活動基本戦略タスクの高橋委員から SC72-16-4, SC72-16-5, SC72-16 に基づいて標準委員会運営規約の改定案、標準委員会審議細則の改定案及び標準誤記対応ガイドライン案が報告され、それぞれについて意見募集を行うことが決まった。

(15-7) 【報告】倫理教育のフォロー状況について及び来年度の周知活動について
(SC72-16-7-1, SC72-16-7-2)

標準活動基本戦略タスクの高橋委員から SC72-16-7-1, SC72-16-7-2 に基づいて倫理教育のフォロー状況及び来年度の周知活動について報告があった。標準委員会委員および4つの専門部会の委員は全員修了（100%）し、分科会を含め約610名の全委員に対して約92%の修了率（休止中の分科会への対応を含む）の状況を報告した。また、H30年度も今年度と同様に倫理規程の周知活動を実施する方針とを確認し、6月の標準委員会

活動をスタートさせ、専門部会及び分科会に展開していく事が決まった。

(15-8)【報告・審議】学協会規格体系化のための検討(最終報告)の意見募集結果
(SC72-16-8)

(15-9)【報告・審議】技術レポート・用語辞典の更新(最終報告)の意見募集結果
(SC72-16-9)

(15-10)【報告・審議】標準策定5ヶ年計画の更新ガイドライン及び新知見収集・評価
WG 設立の意見募集結果 (SC72-16-10)

(15-11)【報告・審議】標準委員会活動5ヶ年計画の意見募集結果 (SC72-16-11)

(15-12)【報告・審議】ANS 内規とのギャップ分析の意見募集結果 (SC72-16-12)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC72-16-8, SC72-16-9, SC72-16-10, SC72-16-11, SC72-16-12 に基づいて“技術レポート・学協会規格体系化報告書(案)”, “技術レポート・用語辞典の更新(案)”, “標準策定5ヶ年計画の更新ガイドライン(案)の策定経緯と趣旨について及び新知見収集・評価WG 設立”, “標準委員会活動5ヶ年計画(案)の策定の経緯と趣旨について”, “標準委員会活動5ヶ年計画(案)及び“ANS 内規とのギャップ分析について”に関する意見募集で意見がなかったことが報告あり, 承認された。また, 学協会規格体系化報告書(案)は今後, 学協会協議会に場所を移してさらに検討を深めることが承認された。

(15-13)【報告・審議(意見募集)】標準委員会の活動基本方針の改定 (SC72-16-13)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC72-16-13 に基づいて“標準委員会の活動基本方針”の改定案が報告され, 意見募集を行うことが決まった。

(15-14)【報告】3学協会での学協会規格整備計画の動向について(電事連との規格類
意見交換会を含む) (SC72-16-14)

(15-15)【報告】学協会ステートメント見直し版の意見募集結果及び回答(SC72-16-15-1,
SC72-16-15-2, SC72-16-15-3)

(15-16)【報告】日本版 NEI 構想に関する ANS 訪問について (SC72-16-16)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から SC72-16-14, SC72-16-15-1, SC72-16-15-2, SC72-16-15-3 及び SC72-16-16 に基づいて“3学協会での学協会規格整備計画の動向”, “学協会ステートメント見直し版“に関する意見募集結果及び回答並びに日本版 NEI 構想に関する ANS 訪問について報告があった。

(15-17)【報告・審議】平成30年度の標準委員会開催日について (SC72-16-17)

(15-18)【報告】標準委員会の出席状況及び投票状況 (SC72-16-18, SC72-16-19)

事務局から SC72-16-17, SC72-16-18, SC72-19 に基づいて平成30年度の標準委員会開催日案, 標準委員会の出席状況及び投票状況について報告され, 平成30年度の標準委員会開催日が承認された。

(16)【報告】原子力安全検討会の活動状況報告 (SC72-19-1, SC72-19-2)

原子力安全検討会の成宮幹事から SC72-19-1, SC72-19-2 に基づいて原子力安全検討会の活動状況報告について報告があった。

6 その他(次回日程)

次回は2018年6月6日(水) 午前から

以 上